

白
 子
 法
 語
 廿
 三
 種
 多
 此
 圖
 免
 畫
 新
 以
 標



~ 13
 3755
 12





己

外題曲多因

廿三編上

文庫



門へ13
號3755
卷12

白縫譚

第廿三

編上集

種員

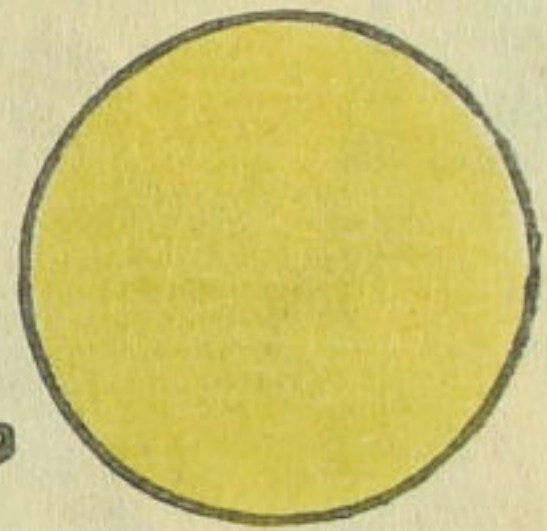
作

國貞

画

柳ら

文庫



一

短綆不汲深とい唐土人の常言なるふ當今俗間ぞ唄小歌ふちあはれ
はるべのさむらひのあふ君の心とくみよるといふ唱哥を聞時ハ倭も
漢も人情さうぬ暗合の妙あらざやされを短綆不深井とぬ
廣大筑紫の蒼海とらをかや 此のあはれひの物語初編を刊行
形を脱離右工門と楠姫老樹といふ巻中ふ未だぬ人物と若菜姫の天人姿
と並立歌舞并のそれあはれぬ戲場めらせり 首画と出像讚歎的といふ
まんじと思ひ智慧の吊桶のみぢうて看官達の尊意をさうふ不得計バ
漢土の常言と倭朝の小唄の唱歌の暗合を弥増妙と端詞ふ記つ

安政丁巳華歳

柳下亭種員





若菜姫

玄海灘右衛門

曲の國

楠媪
老樹

五ノ巻



廿三日
十日を
とて

十日を
とて

廿三日
十日を
とて

東の山は西の山より
高きなりて
西の山は東の山より
遠きなりて
北の山は南の山より
高きなりて
南の山は北の山より
遠きなりて
東の山は西の山より
高きなりて
西の山は東の山より
遠きなりて
北の山は南の山より
高きなりて
南の山は北の山より
遠きなりて

山石の
つぎ入
北の
山石の
つぎ入

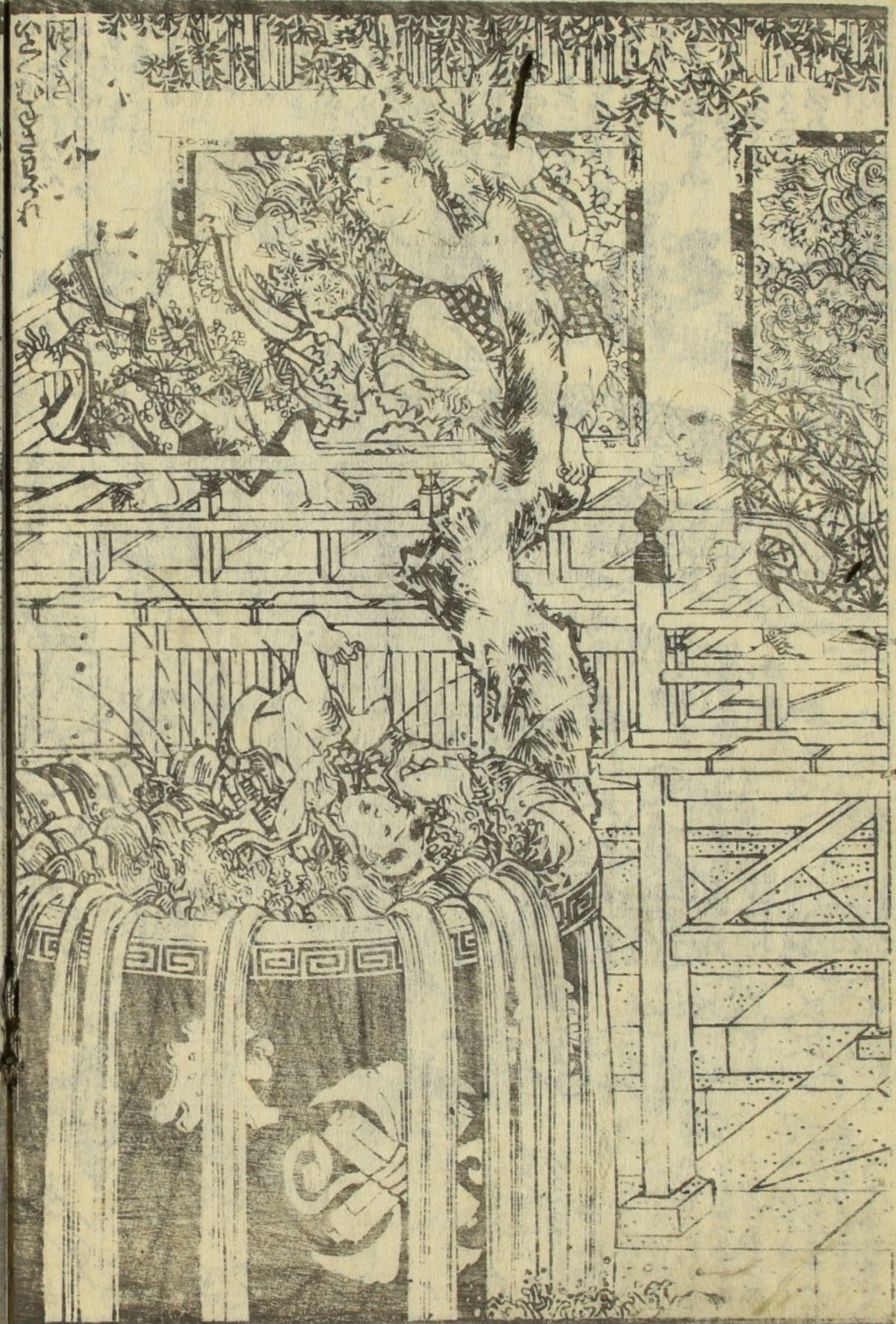
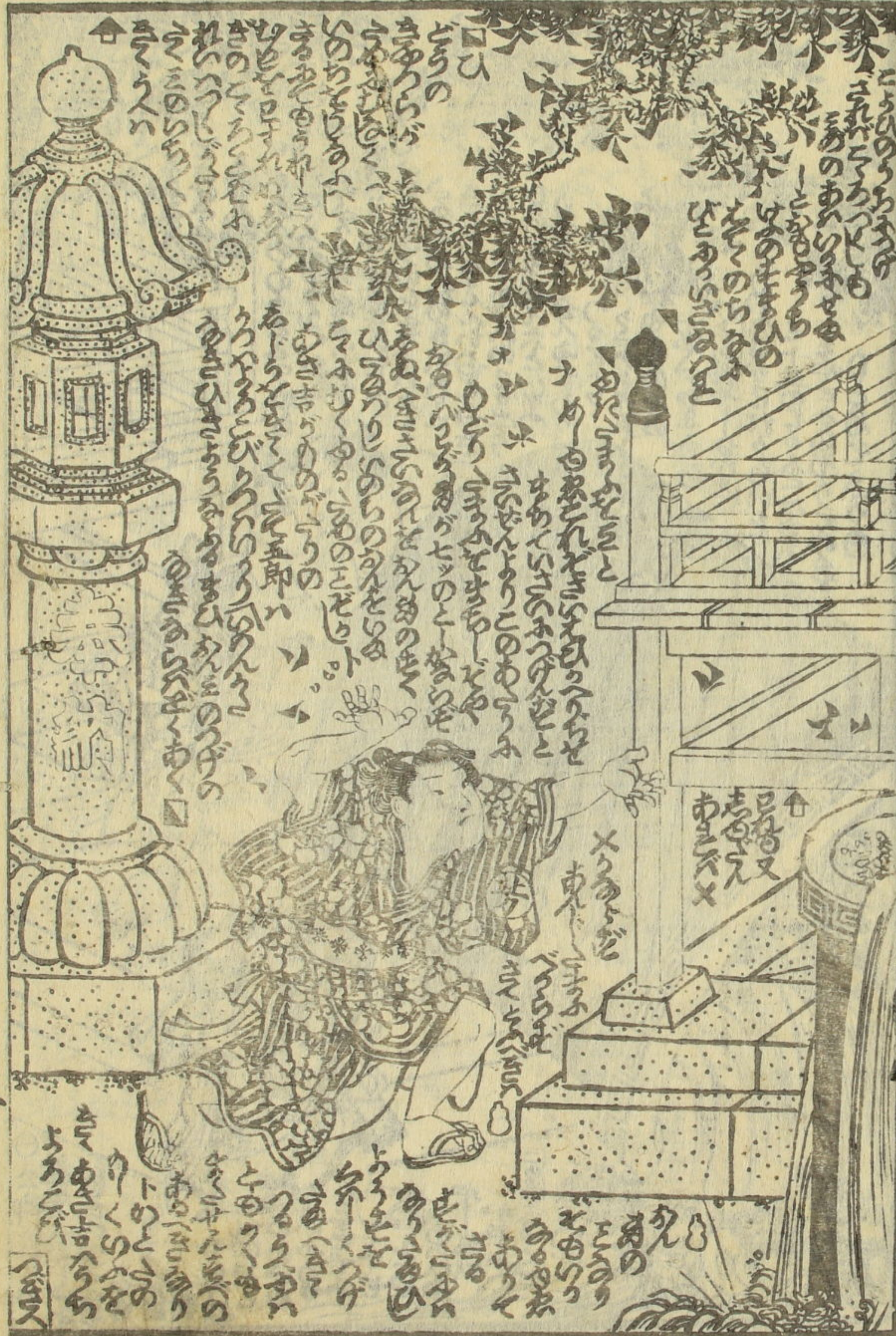


七草宮下禮の死鬼

山石の
つぎ入

春の青柳
助之

山石の
つぎ入



Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a Japanese text. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to the illustration below.



Handwritten text in a cursive script, continuing the transcription from the top of the page. It is arranged in vertical columns, reading from right to left.

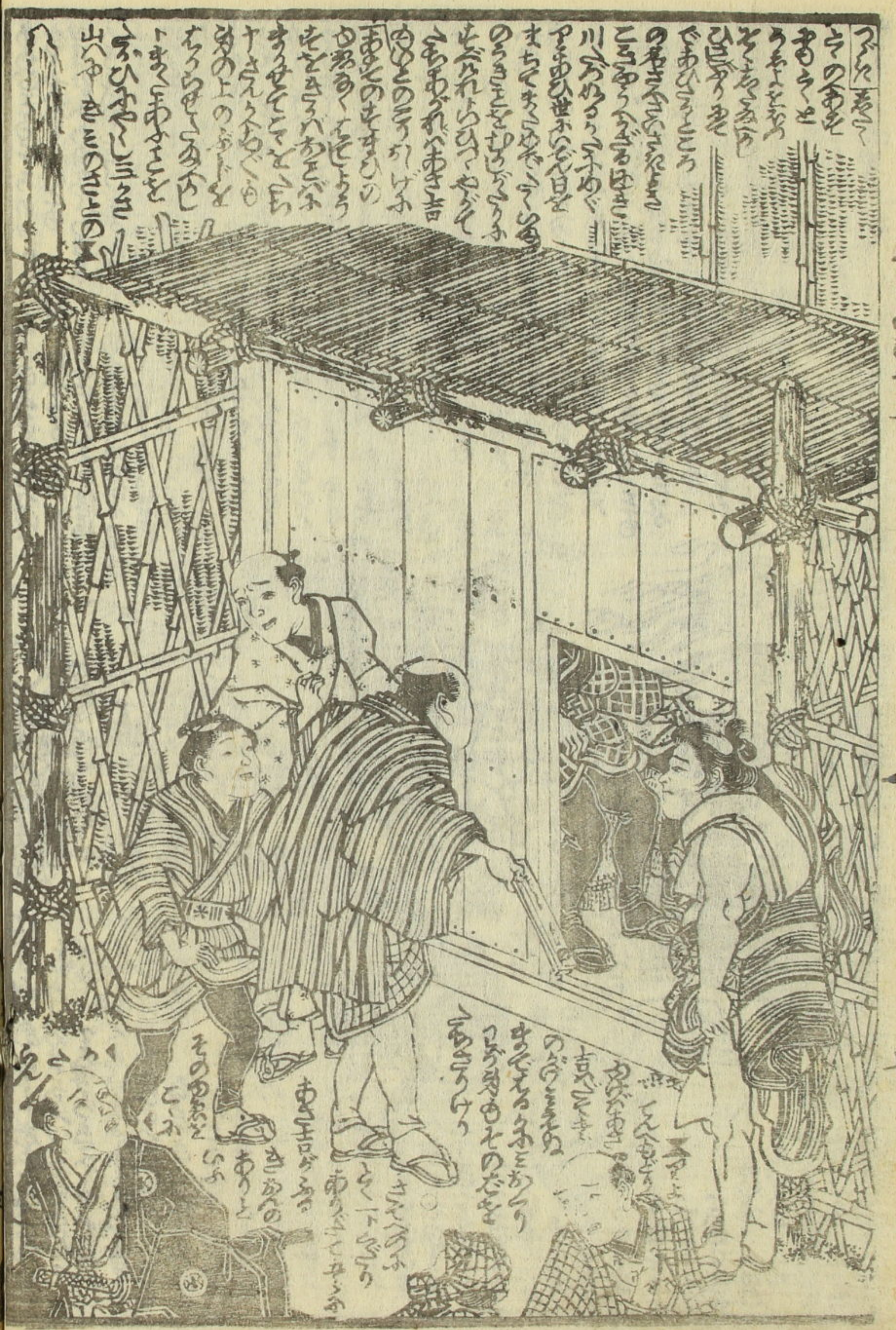
Handwritten text in a cursive script, continuing the transcription from the top of the page. It is arranged in vertical columns, reading from right to left.



Handwritten text in a cursive script, continuing the transcription from the top of the page. It is arranged in vertical columns, reading from right to left.



大鯰川の
 不知火の
 大當の
 待無山の
 仰見山の
 大鯰川の
 不知火の
 大當の
 待無山の
 仰見山の
 大鯰川の
 不知火の
 大當の
 待無山の
 仰見山の



大鯰川の
 不知火の
 大當の
 待無山の
 仰見山の
 大鯰川の
 不知火の
 大當の
 待無山の
 仰見山の
 大鯰川の
 不知火の
 大當の
 待無山の
 仰見山の

大鯰川

大鯰川



鳥の飛ぶ姿は
空を渡る如く
人の心もまた
世を渡る如し
此の世は夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり

鳥の飛ぶ姿は
空を渡る如く
人の心もまた
世を渡る如し
此の世は夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり

鳥の飛ぶ姿は
空を渡る如く
人の心もまた
世を渡る如し
此の世は夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり



鳥の飛ぶ姿は
空を渡る如く
人の心もまた
世を渡る如し
此の世は夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり

鳥の飛ぶ姿は
空を渡る如く
人の心もまた
世を渡る如し
此の世は夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり

鳥の飛ぶ姿は
空を渡る如く
人の心もまた
世を渡る如し
此の世は夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり
嗚呼 人生の世
は 夢の如く
過ぎ行くものなり

安政四年巳年歲新鐫目錄

兒雷也豪傑譚

廿二編
廿三編

柳下亭種員作
竜齋國盛画

甘泉堂梓

假名一休草紙

十九編
十編

同
同
画作

全梓

童謡妙々車

四編
五編
六編

同
同
歌川國貞画

紅英堂板

縁結浮世雛形

初編
二編

同
同
画作

錦魁堂梓

浅緑短刀
深緑茶入
笹野権二棹花鎗

初編
二編

同
同
画作

錦森堂板

玉壺生肌膏
價卅六孔

調新吉原
賣弘柳下亭

金瘡
即愈

奇功紙
價廿四孔
上同

繪草紙東錦画開板所

浅草今戸町

柳下亭



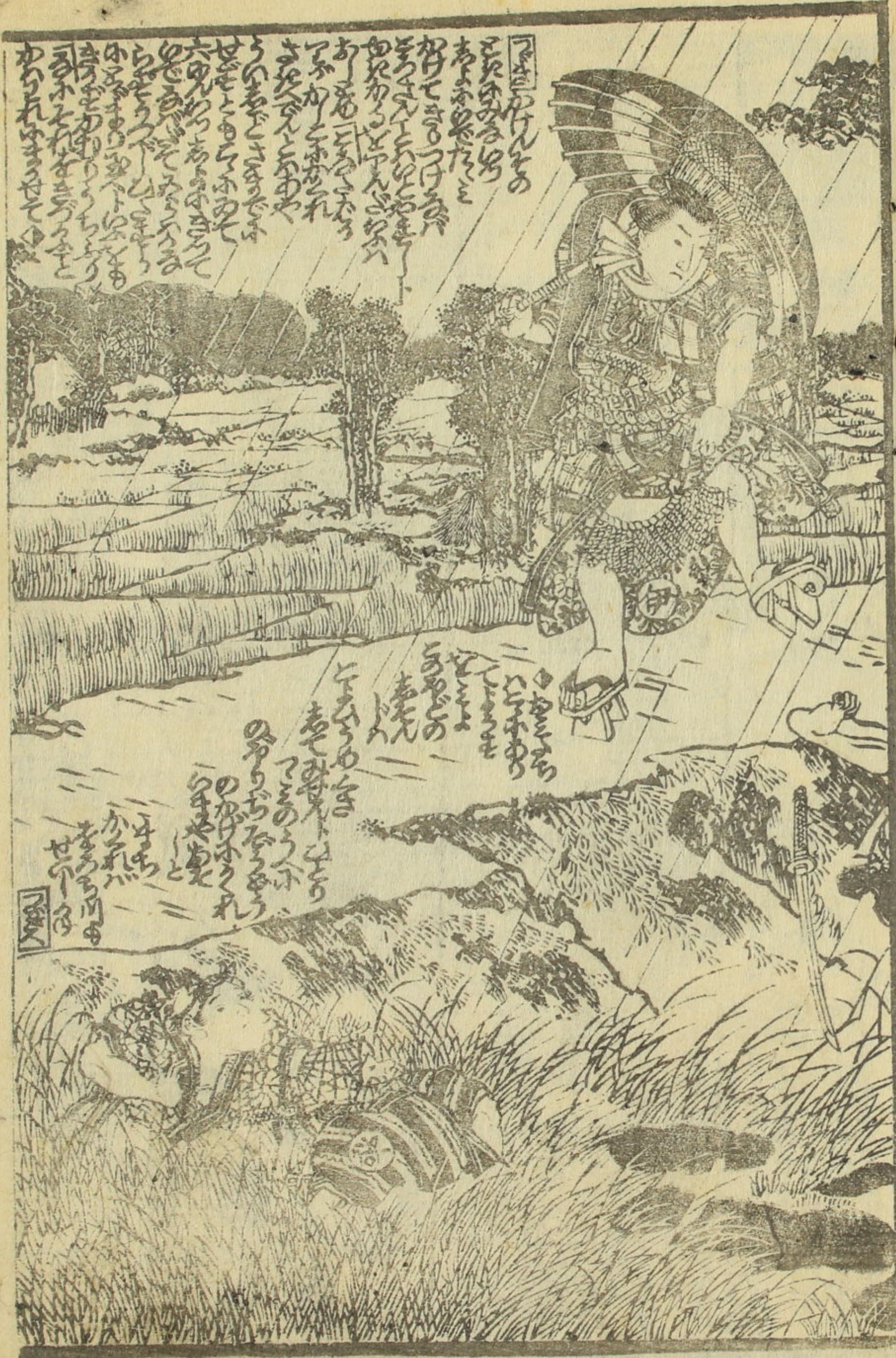
ぬい毛の

あふり

子之真作
玉ちり画

廿三編下



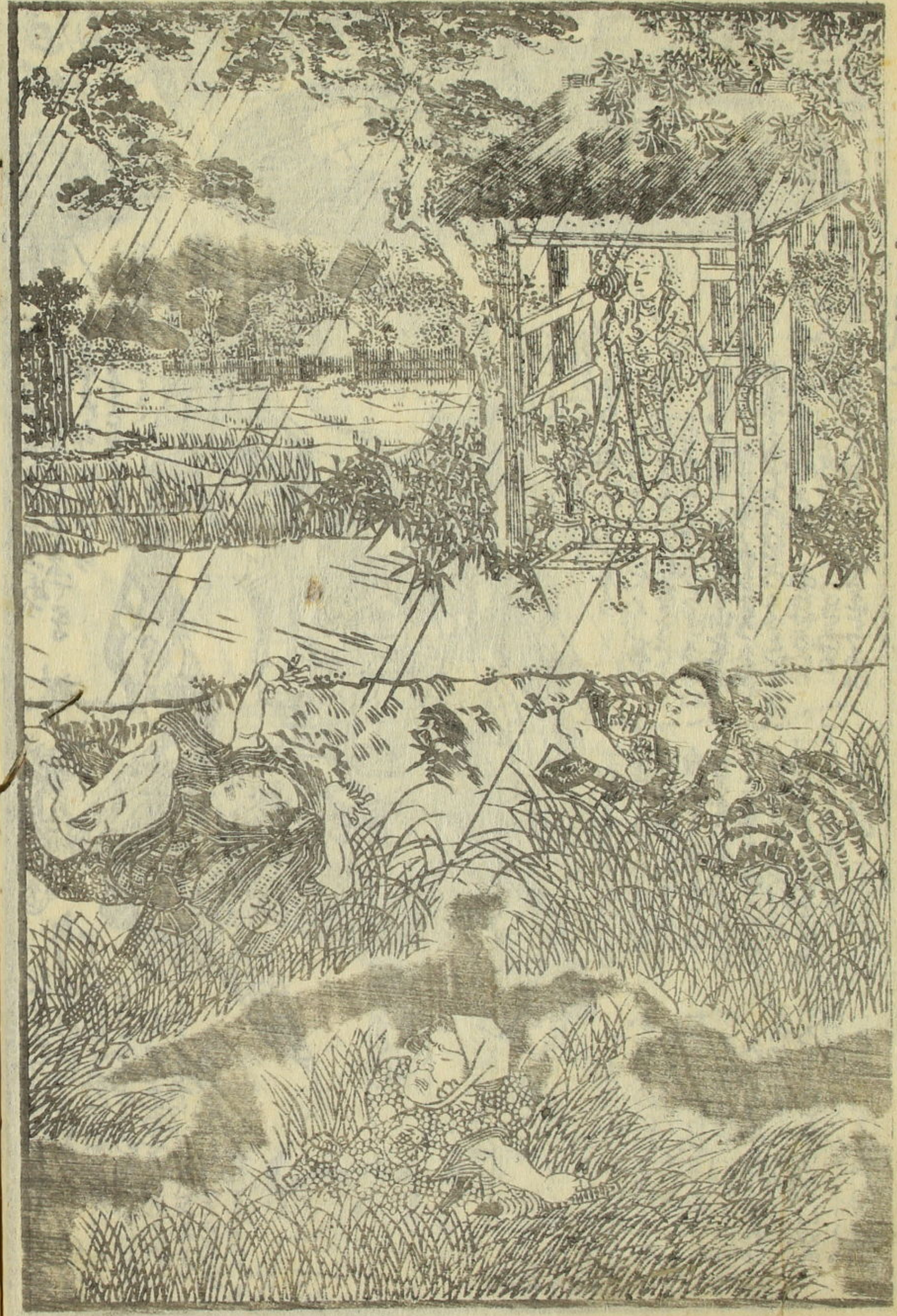


雨の降るに
あはれなる
おのれを
かたじけなく
おぼしめす
あはれなる
おのれを
かたじけなく
おぼしめす

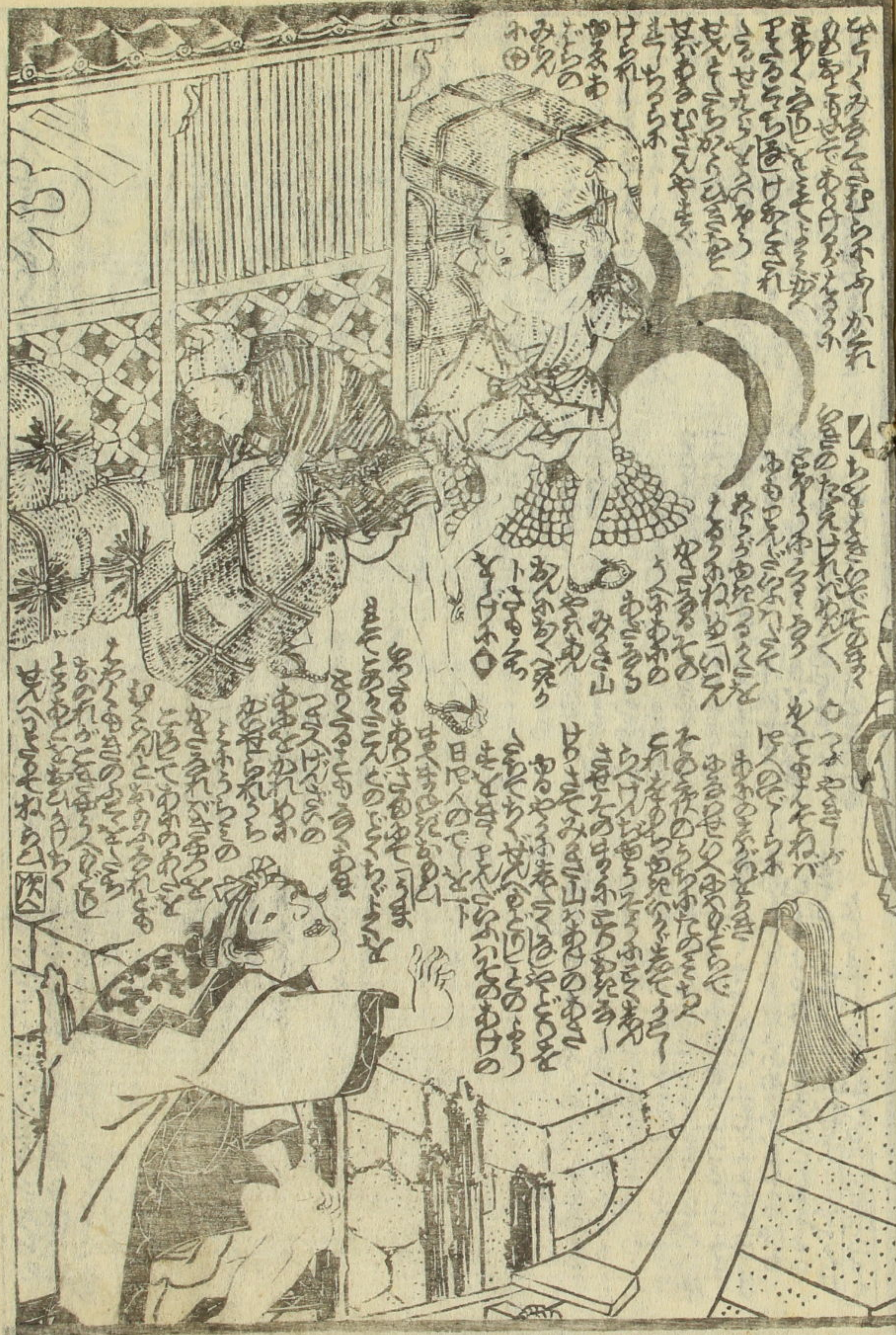
あはれなる
おのれを
かたじけなく
おぼしめす
あはれなる
おのれを
かたじけなく
おぼしめす

あはれなる
おのれを
かたじけなく
おぼしめす

あはれなる
おのれを
かたじけなく
おぼしめす



あはれなる
おのれを
かたじけなく
おぼしめす



Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page, likely serving as a title or introductory notes for the scene below.



Small handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or a note related to the illustration.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page, continuing the narrative or providing commentary on the scene.



Small handwritten text at the bottom of the right page, likely a signature or a note.

